

製品・サービス動向-国内

■GN オーディオジャパン：Jabra のビジネス
スピーカーフォンがさらに進化、2 台を連
結することでスピーカーフォンの会議室の
收音範囲が格段に向上し自然な会話を実現

(PRTIMES：2月6日)

GN オーディオジャパン株式会社
(<https://www.jabra.com/ja-jp/>) (東京都港区) は、
主力商品である高性能スピーカーフォン「Jabra Speak2
75」(発売日：2023年3月)の機能がアップデートし
たことを発表した。



Jabra Speak2 75(GN オーディオジャパン)

今回、Jabra Speak2 75 の以下の連結機能をアップ
デートした。

(1) 收音範囲が約 2.5m の Jabra Speak2 75 を連結す
ることで、收音範囲が2倍以上に広がり、参加者全員の
発話を漏らさず捉え会議室にいる参加者も、リモート
からの参加者も、全員がクリアに音声を聞き

取ることを可能にする。これにより大人数用の会議室
でも自然な会話を可能とする優れた收音範囲を実現す
る。さらに両デバイスの電源を切っても、1台に再び
電源を入れ2台目も起動すると再設定不要で自動的に連
結されるようになっている。

(2) Jabra Speak2 75 は、連結されていても使用
シーンに応じてデュアル・モノラル・モードとステレ
オ・モードを自動的に切り替え、あらゆる状況で最高
の音質を提供する。特に、通話性能においては連結し
ても信号が送信されることで、両方のスピーカーから
同質のクリアな音声が届けられる。加えて、ハウリン
グもしないため、どれだけ重要な会議でもすべてのコ
ミュニケーションがシームレスかつ快適に行われる。
さらに音楽再生時には、2つのスピーカーがステレオ信
号に切り替わり、より豊かで臨場感あふれるオーディ
オ体験を提供する。

GNオーディオジャパンによると、今回のアップ
デートは、使いやすさの追求と品質向上の革新に対す
る同社の真摯なコミットメントから生まれたものとい
う。Speak2 75 の機能を広めていくことで、同社は没入
感と適応性の高いオーディオ・ソリューションの新た
な常識を作りだそうとしている。

■Twilio Japan:ソフトバンクと連携し、固定
電話番号のポータビリティサービスを提供
開始

(PRTIMES：1月31日)

Twilio Japan 合同会社 (<https://www.twilio.com/ja-jp>) (東京都渋谷区) は、パートナー企業であるソフ
トバンク株式会社 (<https://www.softbank.jp/>) (東京

都港区)と連携し、1月31日に日本国内の固定電話番号(0ABJ番号)のポータビリティ(LNP)を提供開始する。この新サービスにより、お客様は現在お使いの固定電話番号を、Twillioのプラットフォーム上で利用することが可能になった。

今回のサービス提供開始により、ユーザ企業は、通信設備を追加することなく、日本全国にある既存の固定電話番号をインターネット上で完全にクラウド化し、同じ番号のままTwillio上での利用が可能になる。

こうすることで、従来の音声通話サービスの利用を継続できるだけでなく、既存の固定電話番号を保持しながらも、TwillioのAIエージェントを活用した電話での問い合わせやカスタマーサポートの管理ができるようになる。

加えて、ユーザ企業にとって以下のような利点がある。(1)既存の0ABJ番号をTwillioのプラットフォーム上で管理することで、通信インフラの柔軟性が向上する。(2)Twillioのクラウドベースのサービスを活用することで、通信コストの削減が可能。(3)Twillioの他のサービス(SMS、Eメール、認証サービス、コンタクトセンターソリューションなど)と統合することで、よりシームレスなコミュニケーションが可能になる。

ソフトバンクとTwillioは、これまでも国内におけるコミュニケーションのDXに連携して取り組んでおり、2022年5月から国内全域の固定電話番号で利用できるクラウド音声通話サービスを提供している。今回のサービス開始はソフトバンクと取り組んできた固定電話番号を活用するサービスの最終段階となり、より一層さまざまな状況に合わせたビジネスコミュニケーション環境の構築を可能にする。

■シュア・ジャパン：中規模から大規模スペースに対応した、新世代ワイヤレス製品を拡充

(PRTIMES：2月3日)

シュア・ジャパン株式会社(<https://www.shure.com/ja-JP>) (東京都港区)は、ワイヤレスコラボレーションシステム「Microflex Wireless neXt 4/ neXt 8」を発表した。



Microflex Wireless neXt 4/ neXt 8 (シュア・ジャパン)

2024年の登場以来、好評を博しているオールインワン型2チャンネルシステムに続き、新たにコンポーネント型4チャンネルおよび8チャンネルの製品が加わる。中規模から大規模スペースにも導入することができる。

新製品は、スタイリッシュなデザインと優れた音質、そして革新的なセットアップの速さを兼ね備えている。また、AES-256アルゴリズムをベースとしたShure音声暗号化機能により、Microflexデバイス間で音声データが保護されるため、安心して使用できるようになっている。さらには、ビデオ会議システムに接続が可能で、リモート参加者を含む会議、授業、イベントなどあらゆる規模のスペースに対してプレミアムな音声を提供する。

MXW neX 4/neXt 8の特長としては以下のとおり。

(1) MXW neX 4/neXt 8は、IntelliMix DSP機能とUSB、Danteネットワークオーディオ、アナログオーディオに対応する充実した音声入出力を備えている。

(2) 数秒でペアリング可能なマイクは複雑な設定の手間を省き、機器を設置してすぐに高品質な音声を提供し、最大100本以上のワイヤレスマイクロホンと同

時に使用できる。さらには、「Designer 6」システム設計・調整ソフトウェアを使用して、システム全体を簡単に設定、調整することもできる。

(3) MXW neX 4/neXt 8 は、Shure ネットワークオーディオ製品の一元管理プラットフォームである「ShureCloud」を使用することで、リアルタイムでデバイスを管理、監視、アップデート、コントロールすることができる。

(4) 新型のグースネックベース型送信機や「Microsoft Teams」認定のバウンダリーマイクロホンは、連続稼働時間が最大 39 時間に向上し、終日の運用にも安心して使用できる。

(5) MXW neX 4/neXt 8 アクセスポイントトランシーバーは、すばやく簡単に導入でき、ネットワークに接続しての接続はもちろん、スタンドアロンシステムとしても使用可能となっている。

一方、システム構成としては、MXW neX 4/neXt 8 のワイヤレス送信機は、MXW1X ボディパック型、MXW2X ハンドヘルド型、MXW6X バウンダリー型、MXW8X グースネックベース型の 4 種類の形状から選択できるようになっている。

送信機には高解像度マトリックスディスプレイが搭載されており、充電残時間、電波品質などを確認することが可能となっている。また、新設計の省スペース型グースネック用充電ステーションもラインナップされており、最大 8 本のマイクを充電することができる。充電ステーションとワイヤレスアクセスポイントの接続はイーサネットで行い、必要に応じて複数充電ステーション間でダイジーチェーン接続も可能となっている。

MXW neX 4/neXt 8 は、製品コンポーネントの高機能化やソフトウェアとの接続性の向上により、ワークフローを簡素化しながらも卓越した音声品質を提供するという。

■ロジクール：Android や BYOD 会議室向けのコネクタ「Logicool Extend」を発売

(1月7日)

株式会社ロジクール (<https://www.logicool.co.jp/ja-jp>) (東京都港区) は、ロジクールの会議システムに使用する Android ベースまたは BYOD 会議室向けコネクタ「Logicool Extend」を 2025 年 1 月 7 日 (火) に発売する。オープン価格。

Logicool Extend は、Android または BYOD で構成されたロジクール会議システム用コネクタ。ノート PC やモバイルデバイスをケーブル 1 本で接続するだけで、ドライバをインストールすることなく、会議室で使用しているオンライン会議アプリケーションですぐに会議に参加ができる。加えて HDMI ケーブルを使用することなく画面共有も行えるようになっている。



Logicool Extend (ロジクール)

また、マグネット式ドック搭載で USB-C ケーブルをテーブル上に固定することや、グロメットアダプタを使用して USB-C ケーブルをテーブルの下から通すことができ、より会議室の空間を快適にする便利な付属品を同梱している。

法人向けのデバイス管理サービス「ロジクール Sync」を活用すれば、IT 管理者が一括して複数のデバイスを管理でき、デバイスを最新の状態に保つ。接続状況の確認や、Rally Bar シリーズの CollabOS アップデートの一環として本製品も更新が可能となっている。さらに、安心の 2 年保証がついている。

なお、環境に配慮して製造されたカーボンニュート

ラル認定製品で、プラスチック部分には認定済みの再利用プラスチックを一部使用し、カーボンフットプリントを軽減している。

ビジネス動向-国内

■シンカ：コミュニケーションを見える化する「カイクラ」が Zoom Phone との連携に向けた技術検証を開始

(PRTIMES:1月16日)

株式会社シンカ (<https://www.thinca.co.jp/>) (東京都千代田区) は、Zoom Communications 社 (<https://www.zoom.com/ja>) (米国・カリフォルニア州) の提供するクラウド型電話サービス「Zoom Phone」との連携に向けた技術検証を開始した。

カイクラは 2014 年 8 月のサービス開始以来、2,700 社以上の企業に導入されているコミュニケーションプラットフォーム。電話、メール、SMS、Web 会議など、企業の顧客対応が多様化する中で、複数のコミュニケーションツールを一元管理し、業務効率化と顧客満足度向上を支援してきた。

近年、クラウド型電話サービス「Zoom Phone」を導入する企業から、「カイクラ上で Zoom Phone のコミュニケーションも見られるようにしたい」という声が多く寄せられるようになった。このニーズに応えるべく、カイクラと Zoom Phone の連携に向けた技術検証を開始した。

連携により、カイクラと Zoom Phone の連携により、Zoom Phone への着信時にカイクラ上に着信通知が届く、カイクラから Zoom Phone の会話履歴の閲覧や通話録音の再生が可能、さらに、カイクラから Zoom Phone での発信が可能になる。Zoom Phone を利用する企業は、Zoom Phone の履歴を含め固定電話、携帯電話、SMS、の履歴を一元管理し、顧客とのやり取りをカイクラ上で確認することができるようになる。

シンカによると、Zoom Phone の普及が加速する中、その成長にともない Zoom Phone を利用している企業にもカイクラを提案できる機会が広がり、多くの企業

にその利便性を実感していただけると確信しているという。

■ナイスモバイル：オカムラとの会議 DX に関する実証実験に向け、世界シェア No.1 の電子黒板を共創空間「point 0 marunouchi」へ導入

(PRTIMES:2月12日)

ナイスモバイル株式会社 (<https://nicemobile.jp/>) (長野県松本市) は、株式会社オカムラ (<https://www.okamura.co.jp/>) (神奈川県横浜市) との会議 DX に関する共同実証実験に向け、株式会社オカムラが出資する株式会社 point0 (東京都千代田区) が世界シェア No.1 の電子黒板 MAXHUB を導入したと発表。

Point0 運営のコーワーキングスペース「point 0 marunouchi」に、電子黒板 MAXHUB「All in One Meeting Board V7 シリーズ」55 型を 1 月 21 日に導入した。また、同社が施設運営ならびに共創活動支援を行う「terminal.0」へも MAXHUB「All in One Meeting Board V シリーズ」86 型を 1 月 24 日導入した。



▲ point 0 marunouchi



▲ terminal.0

(ナイスモバイル)

業務時間の決してすくなくない割合を占める会議を DX することで、社内の生産性を向上すべきとナイスモバイルでは考えている。本取り組みは、会議 DX に対する考えに賛同いただいた、空間づくりや働き方の提案を行っているオカムラと共同で実施する。共創空間に MAXHUB を設置し、各共創空間で参画企業の皆様に使用していただくことで、世の中の会議への解像度を高め、これからの時代に求められる理想的な会議形態を追求することを目的としている。

ビジネス動向-海外

■ブイキューブ：連結子会社 TEN Holdings 社の NASDAQ への上場承認

(2月12日)

株式会社ブイキューブ (<https://jp.vcube.com/>) (東京都港区) の連結子会社 TEN Holdings 社 (米国・ペンシルバニア州) は、2月11日に、NASDAQ への上場の承認を受けたと発表。

TEN Holdings 社は、オンラインイベントやハイブリットイベントのプラットフォーム開発・販売、プロフェッショナルサービスを提供する TEN Events 社を傘下に持つ持ち株会社。資本金は 57,100USD。社長兼 CEO は Randy Jones 氏。

ブイキューブによると、調達予定の資金を活用し、下記の戦略を実行して成長を目指すとしている。

(1) マーケティング・営業体制の強化：認知度向上のためのデジタルマーケティング、営業チームの拡充により売り上げ拡大を図る。

(2) 研究開発の強化：配信プラットフォーム「Xyvid Pro Platform」の機能の向上。イベント参加者のエンゲージメントを高めるインタラクティブな機能、イベント参加者の行動データ分析、多言語対応、AI を活用した追加機能などの実装を予定している。

(3) サービスの多様化とビジネスモデルの転換：現在はリアル・オンライン・ハイブリットイベントのサポートを提供しているが、例えば、顧客がイベントを開催・管理できるようなセルフサービス型のイベント配信プラットフォームを PaaS としてサブスクリプション提供するなど、新たなサービスの実現に向けて取り組む。

(4) 戦略的な M&A：TEN HD の競争力を補完する企業への M&A を通じ、持続的な成長を目指す。

ブイキューブによる TEN HD の持ち株比率は 82.9% となり、TEN HD は引き続き当社の連結子会社として米国イベント DX 事業を担うとしている。

セミナー・展示会情報

<国内>

■ブイキューブセミナー情報 (2月)

「社内の「動画活用」について先進企業の担当者がリアルを語る」「WebRTC より簡単実装！技術者向け通話・配信 SDK 入門講座」「バーチャル株主総会・決算説明会 配信会場シミュレーション」など

会場：オンライン/オンデマンド/東京

主催：株式会社ブイキューブ

詳細・申込：<https://jp.vcube.com/event/all>

■Webex Meetings 関連ウェビナー (2月)

会場：オンデマンド

主催：シスコシステムズ合同会社

詳細・申込：https://www.cisco.com/c/m/ja_jp/training-events/events-webinars/collaboration-webinars.html

国内その他：<https://cnar.jp/cna/event-j.html>

※イベント情報は随時情報が入り次第掲載しております。

CNAR.jp サイトの情報もご参照ください。

業界の動き

オンライン会議・UC 業界は日々さまざまな動きがあります。この定期レポートの発行は月2回（プレスリリースと取材に基づく記事のみ）ですが、CNA レポート・ジャパンでは、業界の動きに関連した国内外の情報を日々皆さんと共有しています。皆様の情報収集のひとつとしてご活用いただければ有難いです。

■フェイスブック (遠隔会議&UC トレンドワッチ)

<https://www.facebook.com/unifiedcom>

■X (旧：Twitter) (遠隔会議&UC トレンドワッチ)

<https://twitter.com/cnarjapan>

■メーリングリスト (dtc-forum)

<https://cnar.jp/cna/dtcforum-ml.html>

定期レポートバックナンバー

定期レポートのバックナンバー（1999年～最新号）は下記 URL で閲覧できます。

<https://cnar.jp/cna/cnareportarchive.htm>

お知らせ（重要）

ー配信システムの変更について：

長年配信システムのひとつとして使用してきました、まぐまぐですが、すでにご案内の通り、まぐまぐでの配信を 2024 年 10 月末号にて終了いたしました。今後は、CNA レポート・ジャパンのサイト、X（旧ツイッター）、facebook ページ、dte-forum メーリングリストでの配信とさせていただきます。

この定期レポートをまぐまぐで受信されている読者の方は大変お手数ですがいずれかの受信方法へご変更お願い致します。

>CNA レポート・ジャパン サイト

<https://cnar.jp>

>X(旧ツイッター)

<https://x.com/cnarjapan>

>facebook ページ

<https://www.facebook.com/unifiedcom>

>メーリングリスト（dte-forum）

<https://cnar.jp/cna/dteforum-ml.html>

■CNAレポート・ジャパン 2025年2月15日号

ホームページ: <https://cnar.jp>

お問い合わせ: inquiry@cnar.jp